

令和3年度 第1回熊本市移動等円滑化推進協議会 議事要旨

I 開催日時

令和3年11月2日(火) 14:30～16:20

II 開催場所

熊本市役所駐輪場 8F 会議室

III 委員名簿 20名(うち欠席3名:坂口委員、佐藤委員、安田委員)

氏 名		所 属・職 業・分 野 等 ※50音順・敬称略
○相藤 絹代	あいとう きぬよ	熊本学園大学非常勤講師
井坂 智徳	いざか とものり	九州旅客鉄道(株)熊本支社 副支社長
岩永 謙二	いわなが けんじ	熊本県バス協会乗合業務委員会 委員 (九州産交バス(株)営業部長)
植田 洋平	うえだ ようへい	熊本障害フォーラム事務局
内田 義朗	うちだ よしろう	熊本県警察本部交通部交通規制課長
オノユリ	おのゆり	子育てネットワーク「縁側 moyai」代表
河本 英典	かわもと ひでのり	熊本市交通局 次長
黒木 三奈子	くろき みなこ	(一財)熊本国際観光コンベンション協会 事業推進課長
坂口 美果	さかぐち みか	公募委員
佐藤 哲	さとう さとし	熊本県立大学環境共生部 准教授
高梨 沙織	たかなし さおり	熊本市PTA協議会 市P担当副会長 部会長
竹内 久美	たけうち くみ	(公社)熊本県理学療法士協会 理事
土肥 桂子	どい けいこ	熊本市東区土木センター維持課 主査
長江 浩史	ながえ こうじ	WeDO くまもと 代表
中野 育生	なかの いくお	熊本電気鉄道(株) 鉄道事業部 副部長
西脇 考志	にしわき こうじ	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官
福島 英隆	ふくしま ひでたか	(一社)熊本市タクシー協会 専務理事
増永 創	ますなが はじめ	熊本駐車場協会 事務局長
安田 二郎	やすだ じろう	熊本市商店街連合会 会長
◎八幡 彩子	やはた あやこ	熊本大学大学院教育学研究科 教授

◎会長、○副会長

IV 次第

- 1 委嘱状交付
- 2 委員紹介
- 3 熊本市長挨拶
- 4 議事
 - (1) 要綱制定及び会長・副会長選任
 - (2) バリアフリーマスタープランについて
 - (3) 今後の意見聴取(市民参画)について
- 5 閉会

V 議事要旨

＜事務局から、議事について説明＞

(2) バリアフリーマスタープランについて

植田委員

- ・旅客施設の利用者が多く、障がいのある方も含め多くの方が利用する中心市街地でのバリアフリー化が重要であるとともに、多核連携都市の実現に向けては、資料 36P の特徴Ⅲに分類されているようなその他の地区においても考えていかなければならない。

長江委員

- ・中心市街地において、点（各施設）のバリアフリー化は進んでいるが、点と点をつなぐ線の部分がバリアフリー化されているかの検証が重要。そのあたりをまちあるき点検などで捉えていくと非常にわかりやすいバリアフリーになると思う。そして、点や線の集まりが面となり、中心市街地のバリアフリー化が進むと考えられる。例えば、公共交通を利用する際には、バスや電車自体ではなく、バス停や市電停留所等も含め乗るまでの検証が重要。

河本委員

- ・電停のバリアフリー化の進捗率については 30%（11/35 箇所）程度、車両についても超低床車両の導入が 30%（5 台）程度であり、バリアフリー化をいかに高めていくかが交通局の課題。費用面もありなかなか進まないのが現状であるが、今後も高めていきたいと考えている。

岩永委員

- ・産交バスにおいては、77%（140/180 台）の乗合バスについて、車いすに対応したスロープ付き車両を導入しているが、昨今のコロナウイルス等の影響もあって、新車を 3 年ほど購入できないなど経営が苦しい状況が続いている。そういった中、バス停まわりのバリアフリー化や乗務員の教育なども重要。バス停のバリアフリー化はあまり進んでおらず、道路と歩道の段差は、中心市街地に行けば行くほど高くなっているのが現状である。

オノユリ委員

- ・同じ子育て世代といっても状況はバラバラで、例えば、私は下の子が双子であるが、双子用のベビーカーとなると途端にいけな場所が増え、ほぼ中心市街地には行かなくなってしまった。運転をしないママからの意見で、リムジンバスではベビーカーを広げたまま乗せられず非常に困ったという声を伺った。運転する人、しない人等、状況の違いによっては、同じ子育て中であっても気づかないものもあるため、今後、そのような意見を可能な限り伝えていきたいと思う。

八幡会長

- ・20 年前と比べると、熊本駅等、ベビーカーでアクセスしやすくなってきているがまだまだ課題も見受けられる。

竹内委員

- ・脳卒中の方と就労支援として郊外と一緒に移動する機会があるが、雨の日に杖をもって傘をさすようなこともできないので、なかなか公共交通機関を使えず、在宅で仕事を考えようかなという声も聞いている。できるだけ外に出るということを進めていきたいが、移動の先には何らかのやりたい活動があるということを意識して、そのための手段を検討する場になったらいいと思う。移動というのは手段ですか、手段の先の目的というものをバス停等の旅客施設はもとより、バスに乗るまで 又は バスに降りてからの経路のバリアフリー化が重要である。

増永委員

- ・車で来街者も多いことから、駐車場のバリアフリーへの配慮も重要であるが、実際は、障がい者専用駐車スペースをどう運用するかが悩みの種になっている。障がいがない方が

駐車するなどしてトラブルがっており、それを回避するためにコーン等を置いて使えないようにしておいて、障がいのある方が実施に使う際にはだれかを呼び出さないといけない駐車場もよく見かける。

長江委員

- ・国も推進し、熊本市も手を挙げているウォーカブル推進都市を円滑に進めるためフラットな道が必要ではないかと我々も動いているが、おもちゃのレゴで段差を埋める「モバイルレゴランププロジェクト」を進めている。バリアフリーを進めるにあたって、このウォーカブルの取組や郊外のP&R（パーク&ライド）など駐車場整備と整合を図ることで相乗的な効果を生むことにつながると思う。

事務局

- ・現在、本市で進めているP&Rというのは、郊外で、例えば光の森ゆめタウンの駐車場を利用し、車からJRに乗り換えて中心市街地に来ていただくというもののや、嘉島町のイオンモールでも、車からバスに乗り換えて中心市街地へ来ていただくような取組等を進めている。

八幡会長

- ・そのような取組はどの程度成果を上げていると捉えているか。

事務局

- ・例えば光の森駅では、駐車場50台程度だが、常に満車の状態。ただ、違う場所では収容台数の半分に満たないような箇所もあり、公共交通の利便性の高さ等、場所によって状況が違う。中心市街地に向かう車の総量を抑えるといった部分では一定の効果があるものと思われる。

中野委員

- ・P&Rについては、官民双方で推進を図っており、年々利用率も上がってきていることから、ウォーカブル推進事業の進捗と併せて更に取組を進めていきたい。

相藤委員

- ・平成3年頃からバリアフリーについての研究をしてきているが、法の整備により、かなりバリアフリー化も進んでいる。当初は、障がい者向けのバリアフリーというイメージだったものが、今では、高齢者の方や妊婦の方等、様々な多様性を重視したものへ変化した。
- ・熊本市においては、多核連携都市を推進していることから、これに関係した形で、どこに重点を置いてバリアフリー化を進めていくか取り上げてみてはどうかと思っており、促進地区の選定においては、まずは、県外からも含め来訪者の多い中心市街地はもちろん、高齢者や障がい者が多く、旅客施設の利用者も多い健軍地区や水前寺地区を促進地区とすべきではないか。またその他、障がい者の方が多くいらっしゃる長嶺地区についても、その他の地区として考えてみてはどうかと思う。

相藤委員

- ・通学路について、先般痛ましい事故も発生している中、熊本市で施している歩道の色分けは、いい取り組みであると思う。最近では、自転車専用通路も整備されてきており、主要道路では、歩行者、自転車、車と分けるような整備もお願いしたい。

オノユリ委員

- ・地域によっては、地域住民の通行が多い通学路でも、幅員が狭く交通量も多い道路がある。色分けしている歩道も小学校の前だけという地域もあり、まだまだ見ていて怖いと感じる通学路は多く存在している。

内田委員

- ・通学路については、千葉県での痛ましい事故を受け、文科省や警察庁から通学路の緊急点検をするよう要請があり、今年、夏休み等に通学路の点検を行ったところ。教育委員会で取りまとめを行っており、道路管理者と交通管理者が協力して子供たちが安心安全に学校に行けるよう通学路の安全確保に努めてまいりたい。

土肥委員

- ・カラー舗装については、市の方で設置させていただいている。場所については、学校や警察のご意見もあるが、地域の方がここに塗ってほしいというご要望があれば、自治会長を通してご要望いただき、施工することも可能であるので、是非道路管理者にお知らせいただきたい。

植田委員

- ・生活関連施設の中に、共同住宅を入れてみてはどうか。移動等円滑化促進地区に指定されれば、その地区は少しずつ暮らしやすい地区になると思うが、それに加えて住む場所も整備されていれば、もっと効果的ではないかと思う。私たち障害のある人は、バリアフリー化された住宅を探そうとしても、中々見つからないことが多い。暮らしやすい住居の整備を進めることが、移動しやすく暮らしやすい多核連携都市の実現に向けても重要と考えている。
- ・公共交通については、ＪＲ・市電・バスのバリアフリー化は順調に進んでおり、とても利用しやすくなってきていて、ありがたく感じている。一方で、毎年、雨の日や体調が悪い日というのは、どうしてもタクシーの力が必要になり、私たちにとっても大きな役割を果たしていることから、東京パラリンピックと同時に導入が進められているＵＤタクシーの整備など、熊本市でも進めていってもらえればと感じている。
- ・また、バリアフリーマスタープランの策定を機に、公共交通利用者の利便性向上のため、夜間のスロープ付き車両の運行や、運行時間の固定化にも取り組んでもらいたい。

井坂委員

- ・熊本駅に関して、昨年、リニューアルオープンし、駅舎のバリアフリーもさることながら、駅舎からバス停へのアクセスについても使いやすい状況になってきている。他の駅についても、優先順位をつけながら取り組んでいかなければならない。
- ・今年度からは、障害者団体と意見交換をさせていただきながら、ハード面以外でもソフト面での対応を考えていくというところである。マスタープランにて、優先的にこの地区を促進するというふうな方針が示されれば連携を図りたい。

黒木委員

- ・観光客だけでなく、熊本で開催される学会や大会等、県外の方々をお招きするということをやっているが、いつも思うのは、熊本の方が暮らしやすく住みやすく安全に楽しんでいるということは、県外の人にとって大きな魅力の一つである。市民がお互いに理解し支えあうことによってバリアフリー化を進めていくということは、都市の魅力向上につながり、県外や海外からの誘致にもつながる。

八幡会長

- ・心のバリアフリーにつながるものであるが、様々な場面での障がい者への声掛けなど、あたたかい人の関わり方が重要で、そうすることで、熊本は素敵だよという魅力を発信していけたらいいと思う。

(3) 今後の意見聴取（市民参画）について

植田委員

- ・難しい表現を避けた標記やUDフォントの活用等を意識し、アンケート用紙のフォーマットを検討してほしい。

オノユリ委員

- ・ママたちはアンケートに回答するにしても、まとまった時間が取れないので、事前に何問あるのか、どのくらいかかるのか等、事前に自分で確認できると、自分の中で時間を作って回答しやすいとの意見もある。

相藤委員

- ・アンケート調査の対象に子育て世代も入れてほしい。また、ランダムに 2000 人を抽出するのではなく、ある程度、障がい種別や年代別に分けて抽出した方がよい。

竹内委員

- ・アンケートについては、共生社会であるので、限定されたものではなく、各年齢層から意見を聴取したほうがよい。
- ・まちあるき点検については、実施にあたり、事前にこういった点を点検するといったチェック項目をリストアップしたほうがよい。

オノユリ委員

- ・外国で商業施設に車いすマークのほかにもベビーカーマークが設置されている事例がある等、知らない事例が色々あるので、アンケートにおいては、熊本だけではなく県外からの意見も聴取してみてもどうか。

増永委員

- ・まずは、中心市街地でまちあるき点検を行うということであったが、今後は、水前寺・九品寺地区や健軍地区の点検もしてみてもどうかと思う。

事務局

- ・まずは、様々な施設が混在する中心市街地において、3班体制で実施予定しているが、その他の地区についてもご意見に応じて今後検討していく。

八幡会長

- ・色々の立場から参画いただいております、見えている場所等が実に様々であると感じた。上質な生活都市の実現に向けては、今後も様々な立場の方からご意見をいただき反映させていく必要があることを痛感したところであり、引き続き皆様のお力添えをお願いしたい。

以上